



小児科 部長
宇田川 美野子
[主な資格]
日本小児科学会 専門医
日本小児科学会 指導医

身近な感染症について

感染症という言葉から何を連想しますか。冬季はインフルエンザが気になりますね。夏季は食中毒でしょうか。子どもの病気かなと思われる方も多いでしょう。確かに私たちは子どもの時にたくさんの感染症にかかります。かつては重症化する感染症も多かったのですが、衛生環境の向上や医療の進歩などにより、子どもたちが多くの感染症から守られようになりました。それでも感染症の脅威がなくなることはなく、私たちの身近に潜んでいるものも数多くあります。今回は、日常生活の中で気をつけたい感染症をいくつかご紹介します。

食中毒

まず、食中毒。食べ物だけではなく、動物や人から感染するものもあります(表1)。予防は①手洗い、②肉類などの加熱調理、③野菜など生で食べる食材はよく洗う、④調理器具の清潔保持、⑤ペットとの濃厚接触到に注意など。

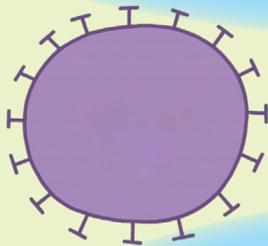


表1. 人や動物からも感染する主な食中毒と感染経路

ノロウイルス	人の嘔吐物や糞便、弁当や給食などの食事、カキなどの二枚貝
カンピロバクター菌	多くの動物・ペットの糞便、生肉とくに鶏肉
サルモネラ菌	イヌ・ネコ・爬虫類・カメなどの糞便、生肉、鶏卵
腸管出血性大腸菌	牛の生肉・レバー、菌で汚染された水

自然の中で感染する病気

次に、自然の中で感染する病気です(表2)。破傷風はワクチンで予防することが重要です。けがをした時には流水でよく洗い念のため受診しましょう。野山ではダニや蚊に注意します。皮膚を露出しないよう服装に気をつけましょう。素足にサンダルも危険です。帰宅後、皮膚にダニの虫体を見つけた時は、刺さっている口の部分が残らないように病院で除去してもらい、その後の発熱に気をつけます。



表2. アウトドアで感染する主な病気と感染経路

破傷風	動物の咬傷や土などによる傷口の汚染
日本脳炎	蚊が媒介
ツツガムシ病	ツツガムシが媒介
日本紅斑熱	マダニが媒介

海外で注意すべき病気

最後は海外で注意すべき病気です(表3)。生水はいろいろな感染症の恐れがあり飲まないこと。マラリア、デング熱は蚊に注意。狂犬病は動物にかまれないように気をつけます。また特別な感染症の流行状況に注意し、危険な地域への渡航を控えましょう。仕事や留学で長期に滞在するときには、その国の指定の予防接種を受けておく必要があります。



表3. 海外で注意すべき主な感染症と地域

食物・水	A型肝炎、赤痢、腸チフス、コレラ(発展途上国)
蚊から	マラリア、デング熱(熱帯・亜熱帯)ジカ熱(中南米など)
動物から	狂犬病(世界各地のイヌなどの感染動物)
鳥インフルエンザ	アジア・アフリカ・中東のアヒル、ニワトリなど
中東呼吸器症候群	中東のラクダに注意
エボラ出血熱	アフリカ(中央部~西部)
川・湖・沼の淡水	寄生虫(世界各地)